

頭頸部腫瘍の診断・治療

広島市立広島市民病院 頭頸部外科

綾田 展明

頭頸部腫瘍の種類

・頭頸部癌取扱規約より (2012)

- 1 口唇・口腔
- 2 鼻腔・副鼻腔
- 3 上咽頭
- 4 中咽頭
- 5 下咽頭
- 6 喉頭
- 7 大唾液腺
- 8 甲状腺
- 9 粘膜悪性黒色腫

・頭頸部癌診療ガイドライン (2013)

- 1 口腔癌(舌癌)
- 2 上顎洞癌
- 3 上咽頭癌
- 4 中咽頭癌
- 5 下咽頭癌
- 6 喉頭癌
- 7 甲状腺癌
- 8 唾液腺癌(耳下腺癌)
- 9 原発不明頸部転移癌

頭頸部癌の診断

- 1 生活習慣が関係する
喫煙・飲酒
- 2 体表に近いところにある
症状が出やすい
見たり、触ったりできる

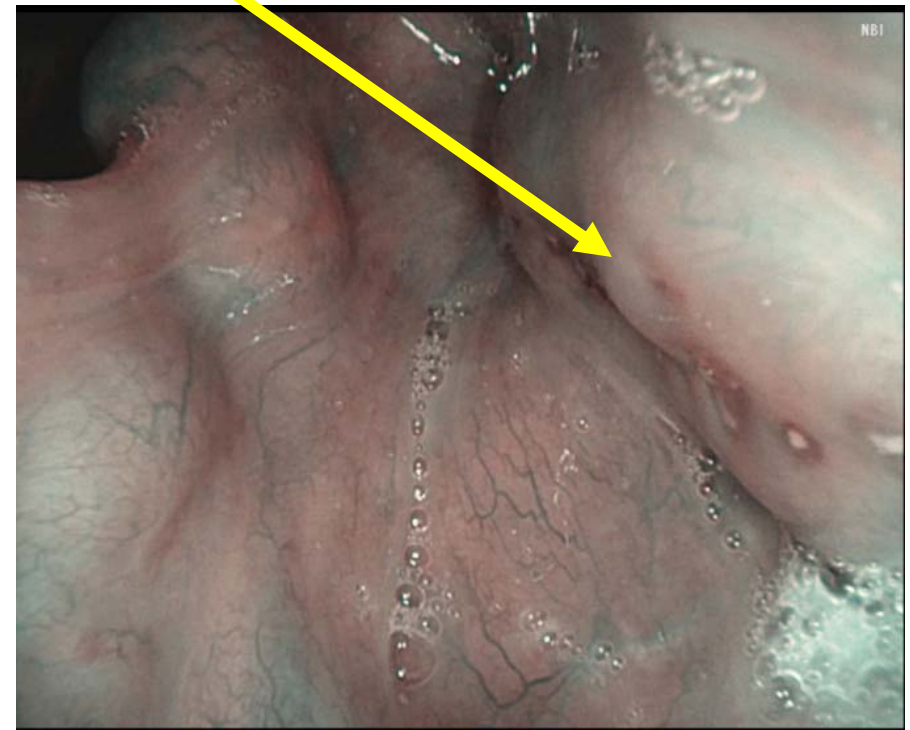
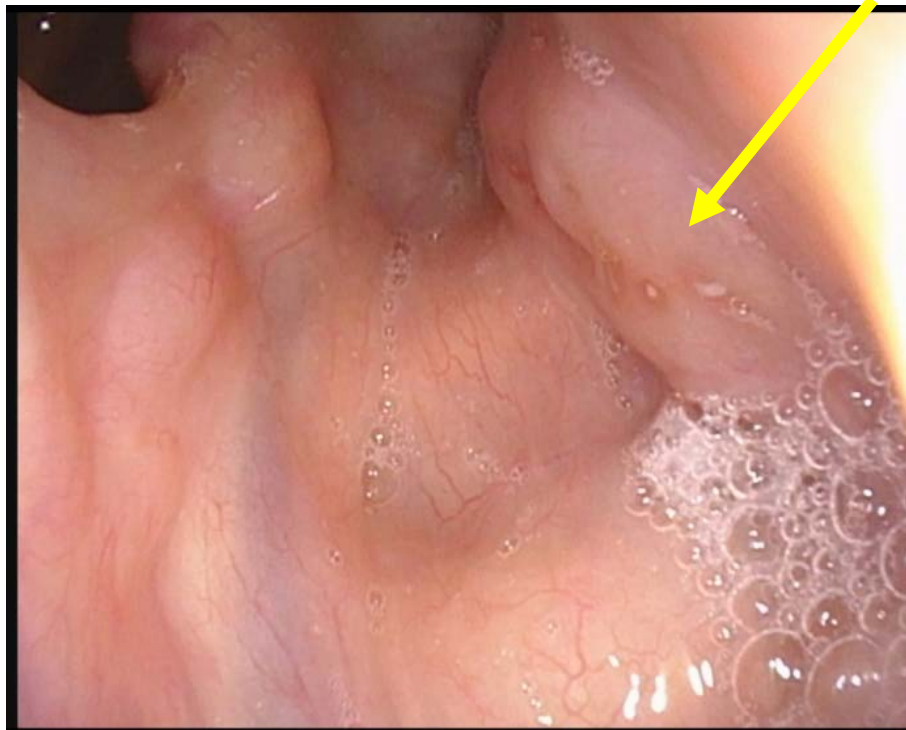


よく見る異常所見

- 1 上部消化管内視鏡検査にて異常
- 2 頸部に腫瘤をふれる
- 3 頭部CTやMRIに鼻副鼻腔陰影を認める

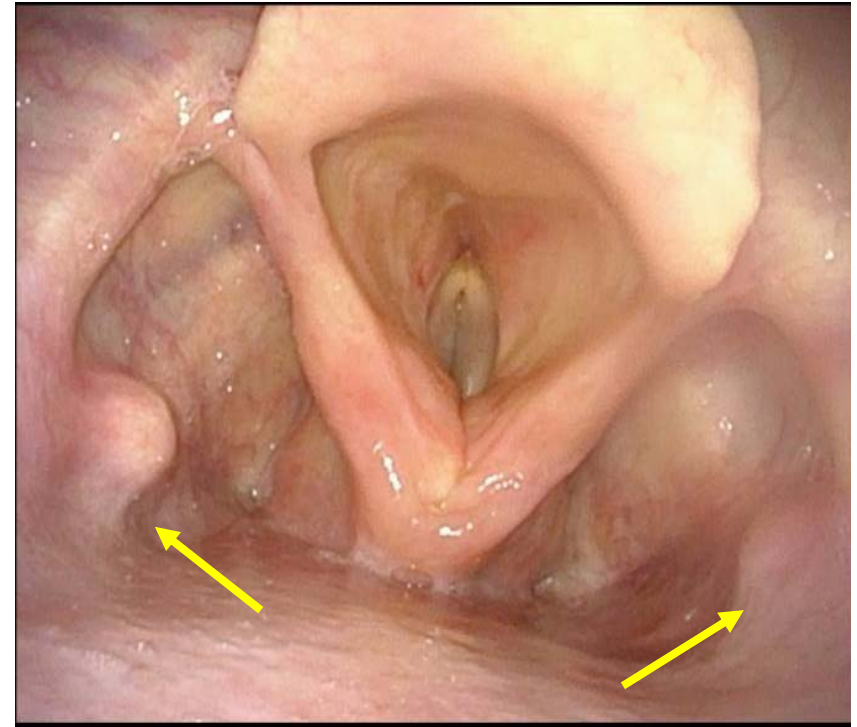
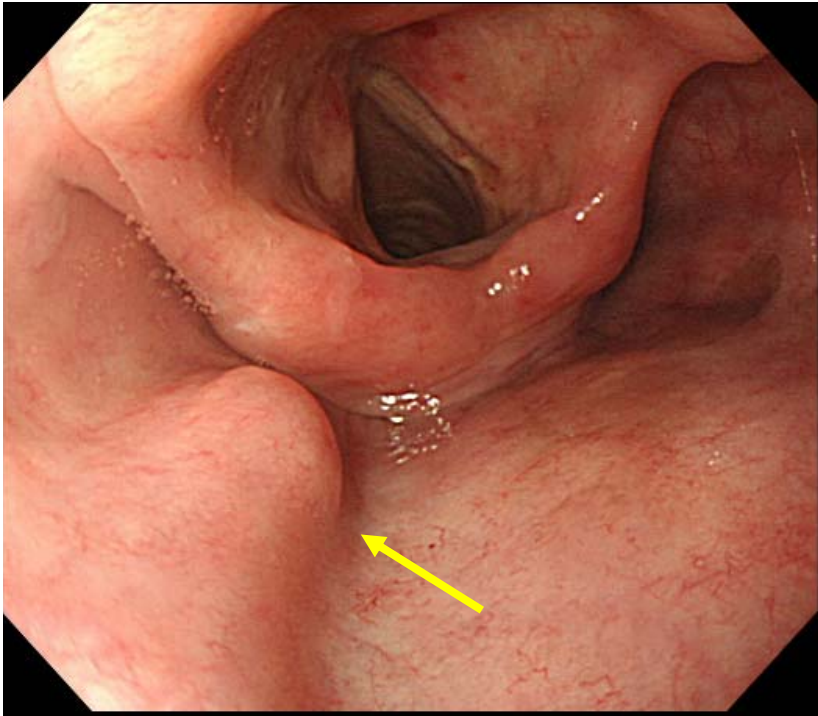
上部消化管内視鏡検査の異常所見①

リンパ組織



下咽頭左側のリンパ組織

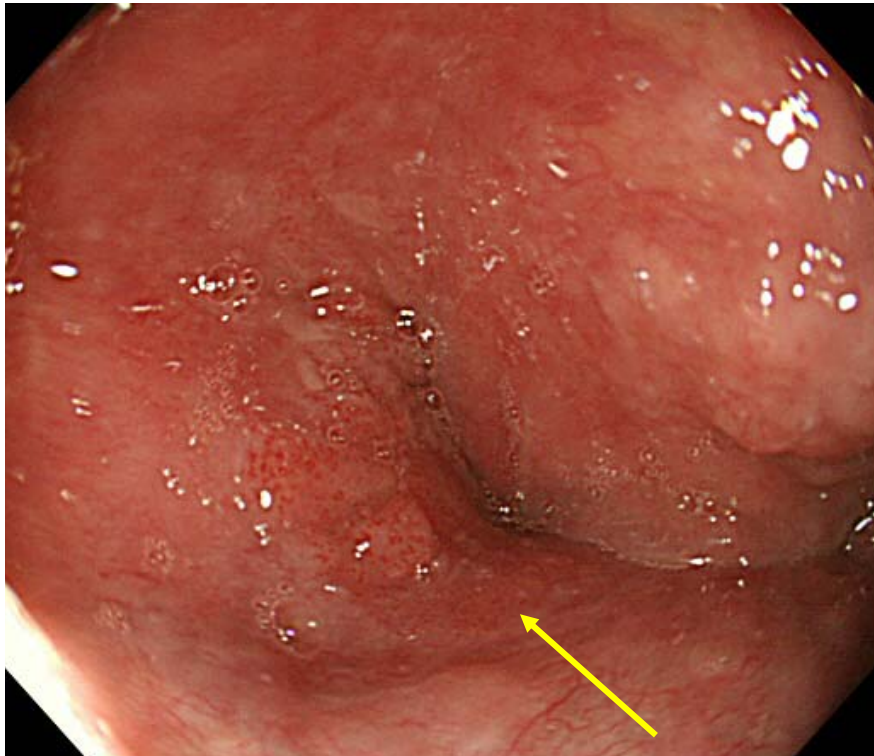
上部消化管内視鏡検査の異常所見②



甲状軟骨の隆起

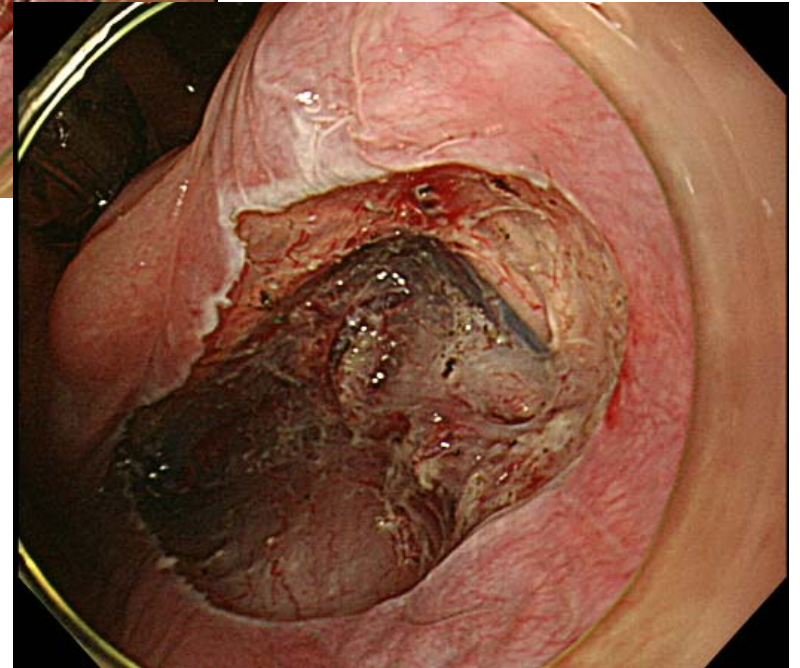
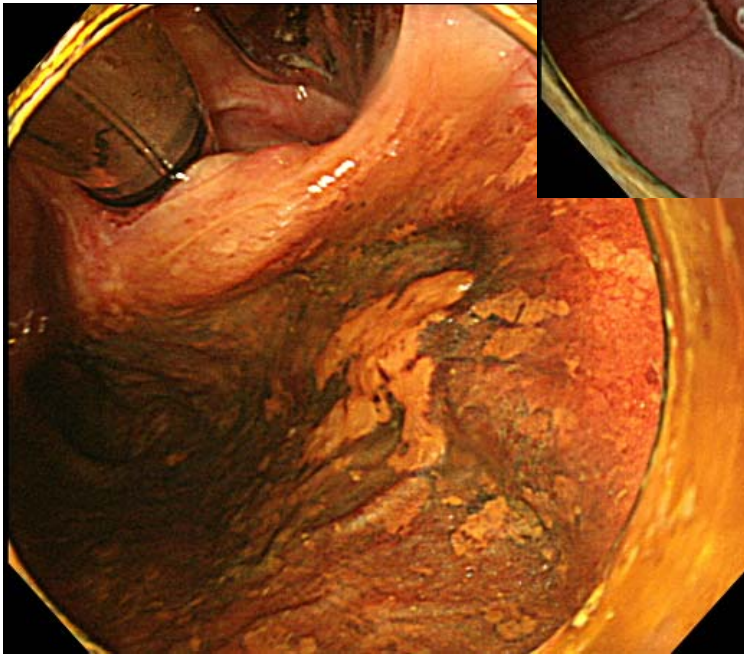
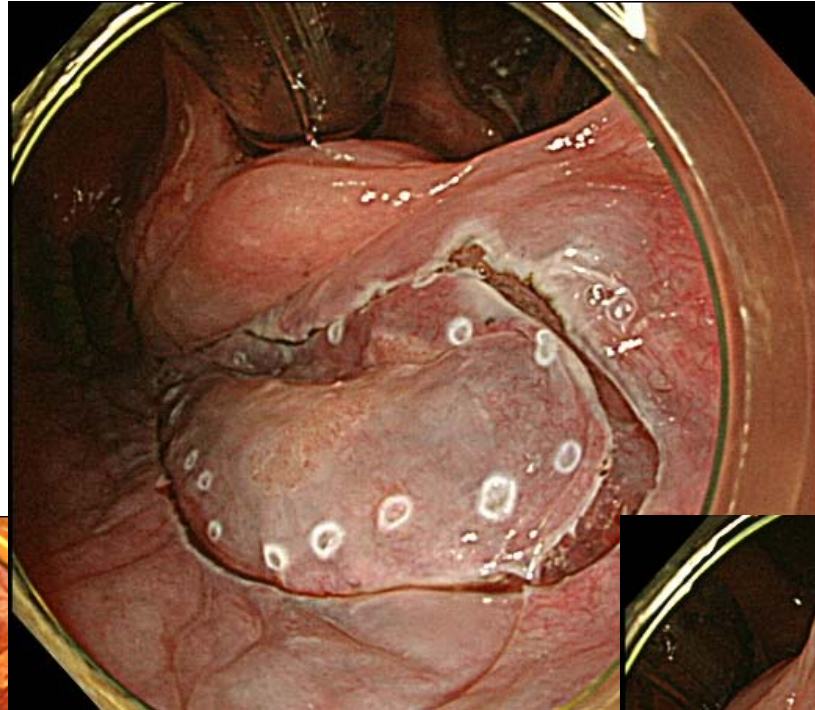
上部消化管内視鏡検査の異常所見③

NBI

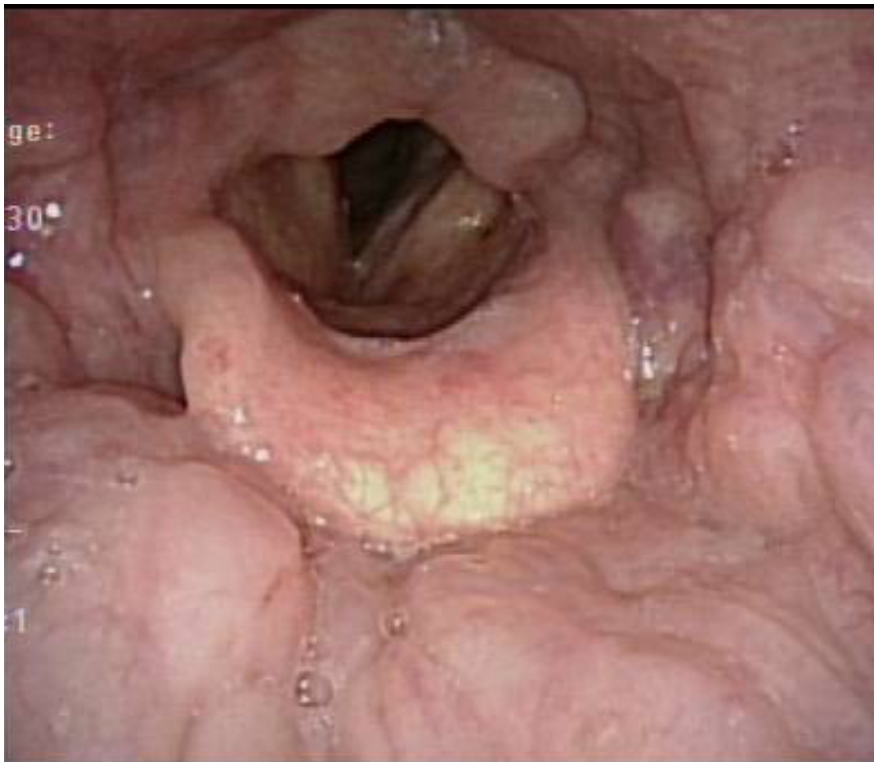


下咽頭表在癌

咽頭表在癌の内視鏡下切除術



頸部リンパ節転移(原発不明)



原発不明頸部転移癌

- 原発不明頸部転移癌とは

頸部リンパ節から組織学的・細胞学的に癌が証明
原発巣検索により初回治療までに原発巣が発見できない
頭頸部癌の1~5%
好発年齢 60歳代 男女比 2~2.5:1
扁平上皮癌が80%以上

- 原発不明頸部転移癌の治療

頸部郭清術(N1は放射線治療と差がない)
頸部郭清術＋術後(化学)放射線治療、化学放射線治療
＋頸部郭清術(N2以上)

原発巣の検索と口蓋扁桃

- 画像検査(CT・MRI・FDG－PET／CT)

- 原発不明頸部転移癌と中咽頭癌

Cianchettiら 117/132(236例中原発判明132)

舌根or口蓋扁桃

後古ら 7/21(81例)、前田ら 9/25(68例)

口蓋扁桃

口蓋扁桃摘出術(30~40%の検出)

Randallら 6/34(18%)

Righiら 6/19

千々和ら 2/4

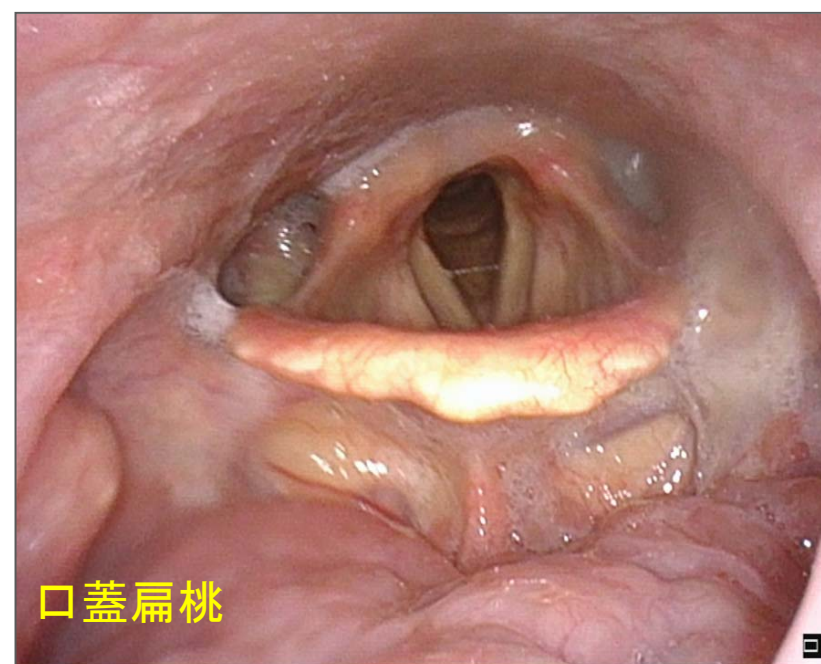
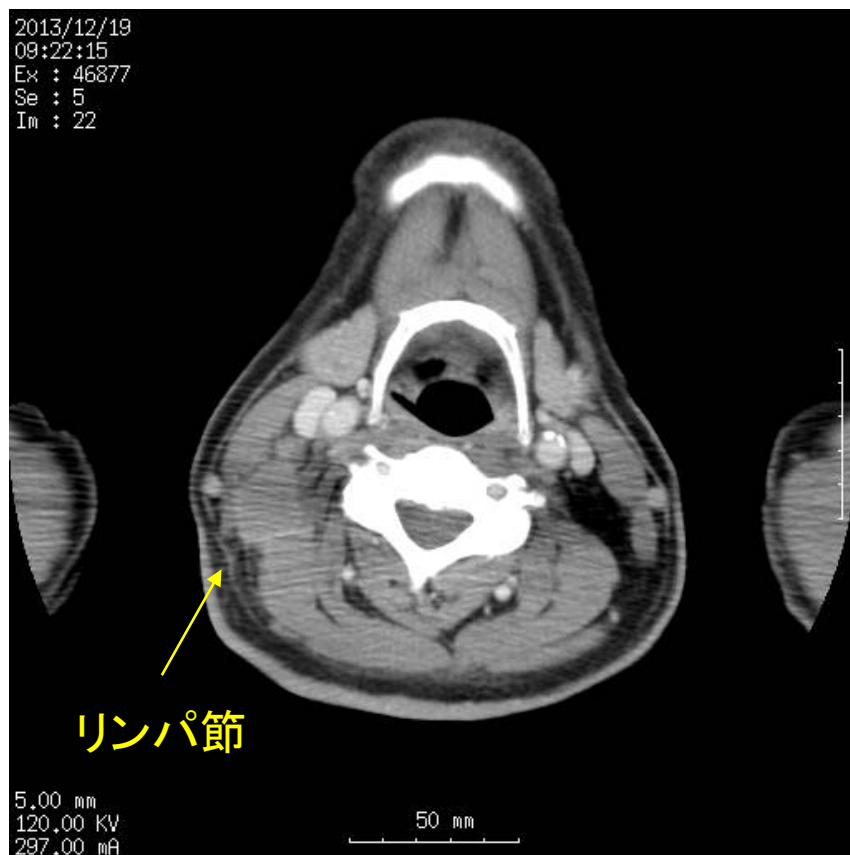
喜井ら 2/6

口蓋扁桃生検

McQuoneら 13%

Joshuaら 3.2%

口蓋扁桃原発扁平上皮癌



HPV関連中咽頭癌

HPV(Human papilloma virus)

- 人の疣贅(いぼ)を発症するウイルス
- 小型のDNAウイルスで種特異性が高い
- 多くの遺伝子型 高リスク型(16,18,52など)
低リスク型(6,11など)
- 皮膚・粘膜の基底層に感染
- 感染率は高く、接触にて約80%に成立。
持続感染は10%程度。20~30年後に高度細胞
異型5%、癌化は1%以下

HPV関連中咽頭癌

- 部位(図)

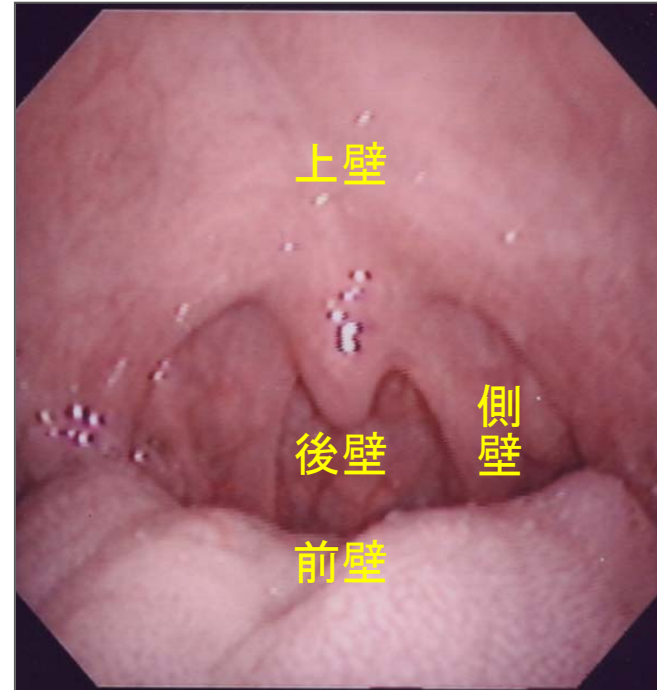
側壁(約50%)

前壁(約30%)

後壁(約20%)

上壁(0%)

(猪原ら)



- 特徴

口蓋扁桃・舌根

若年者

性習慣

頸部のう胞状リンパ節腫脹

Goldenbergら 17/20(中咽頭癌)11/13(HPV陽性)

安井ら 5/8(中咽頭癌) 6/8(HPV陽性)

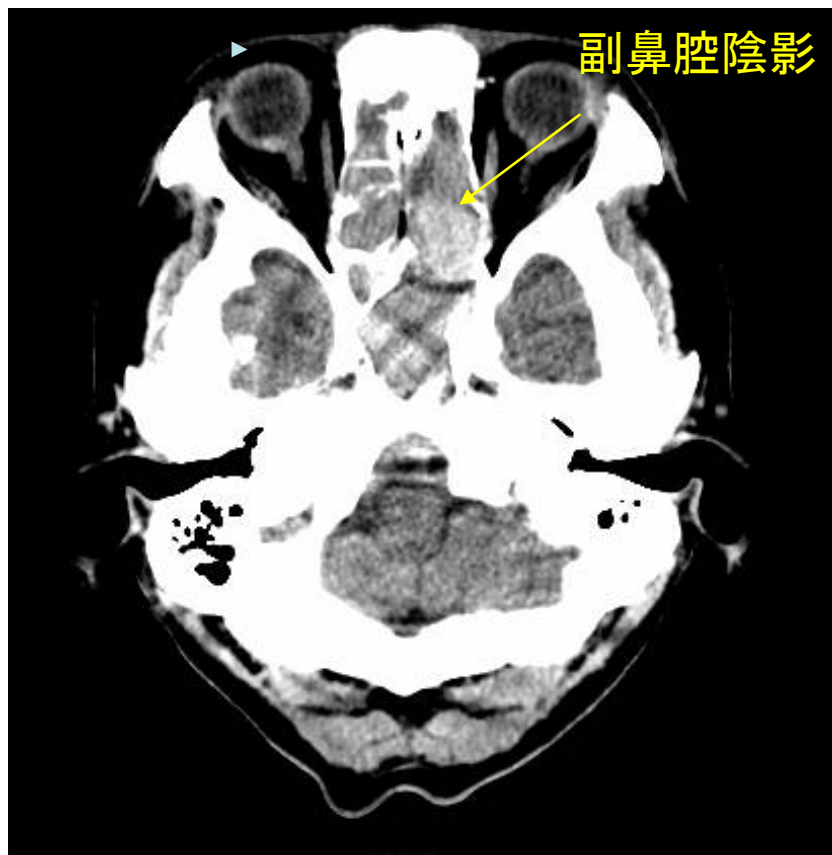
予後は従来より良(非喫煙者の方がよい)

低侵襲治療(治療強度を下げることは可能か?)

放射線照射量の変更

分子標的薬(セツキシマブ)の使用など

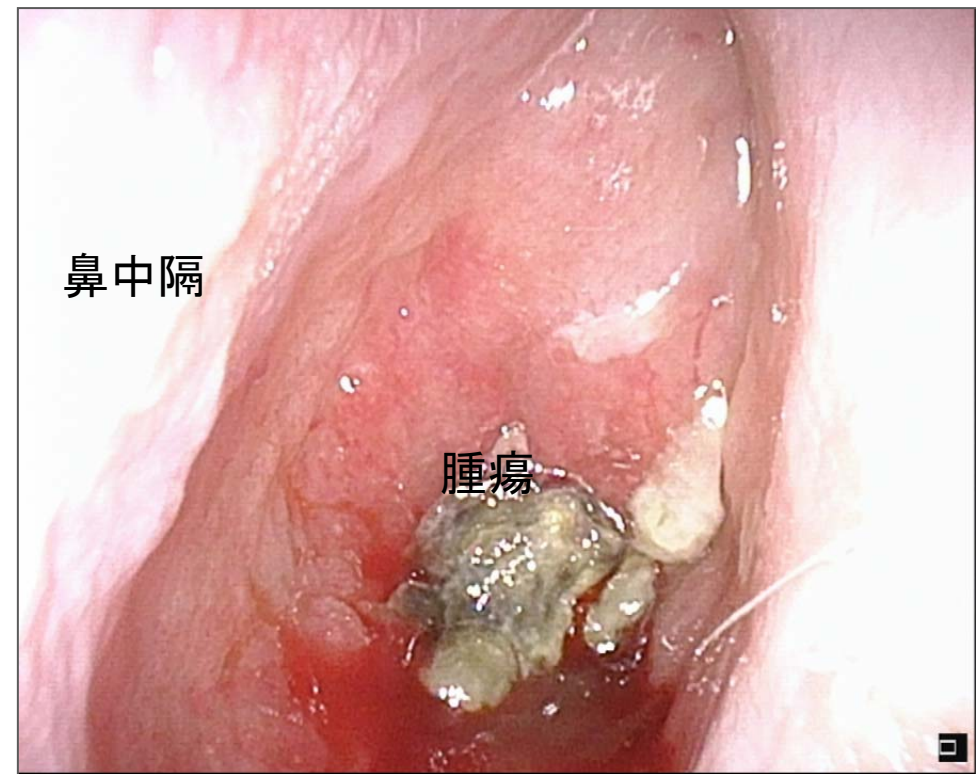
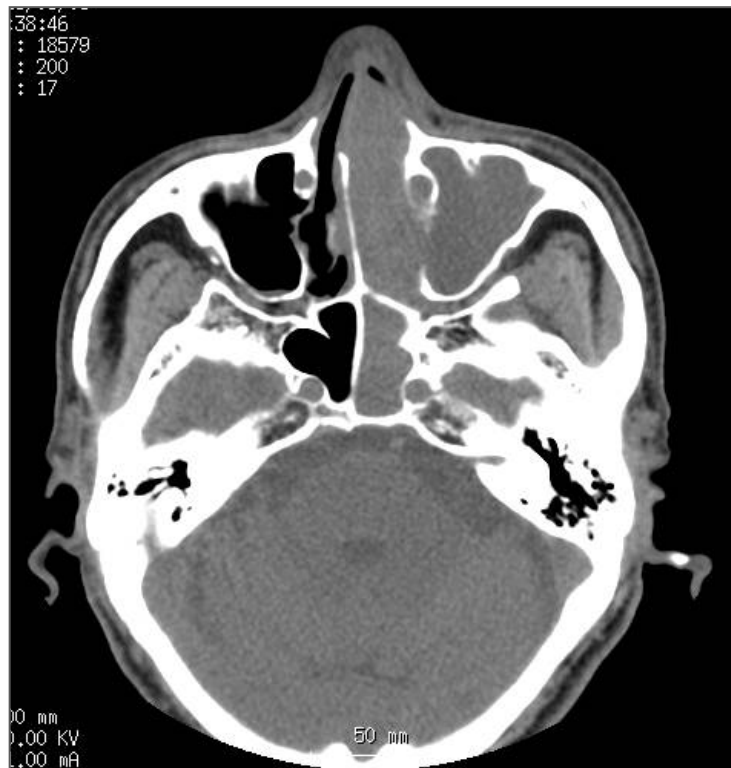
頭部CTにて鼻腔・副鼻腔に異常陰影



鼻腔・副鼻腔悪性腫瘍

悪性リンパ腫

- 鼻腔 NK/TまたはTcell (約70%)
- 副鼻腔 Bcell (約80%)



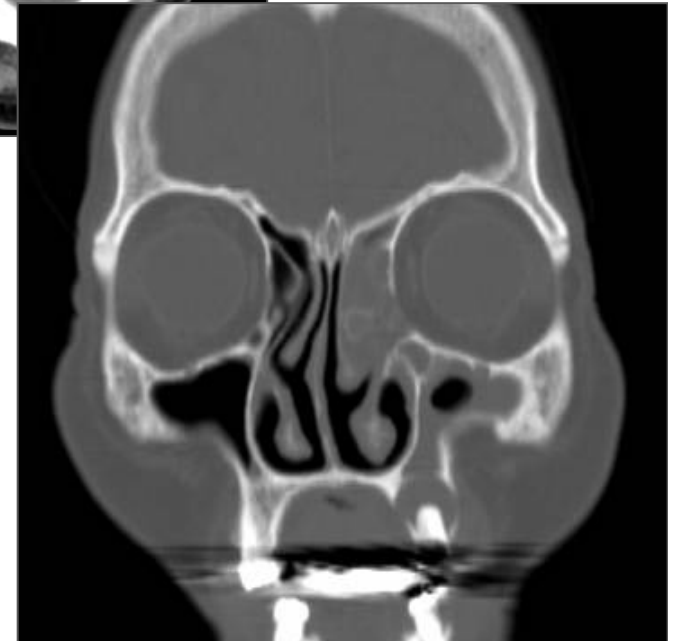
(NK/T cell) 症例

腫瘍を否定しなければいけない陰影

(一側性副鼻腔陰影)

- 1 歯性上顎洞炎
- 2 副鼻腔真菌症
- 3 鼻副鼻腔乳頭腫
- 4 鼻副鼻腔癌

上記など、多いのは
炎症性疾患であるが
腫瘍も否定できない



注意が必要な良性腫瘍 (鼻副鼻腔乳頭腫)

- 症状

一側性鼻閉・鼻漏・鼻出血

- 診断

内視鏡

CT検査

骨の状態

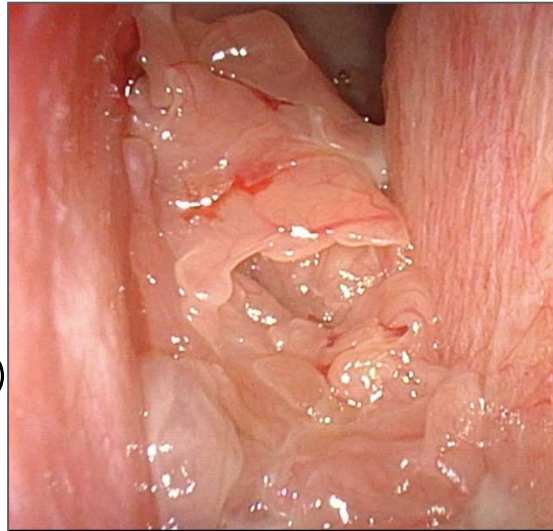
骨肥厚(乳頭腫基部)

MRI検査

進展範囲

T2強調

中等度、脳回様索状・線状



鼻副鼻腔乳頭腫

- 頻度

10万人あたり0.6人 成壮年男性(50~60歳台)に多い

- 種類

外反性(exophytic type)約50% 鼻中隔に多い

円柱上皮性(cylindrical cell type) 3%

内反性(inverted type) 約半数(47%)

- 癌合併

同時性 数%~20%程度 異時性 数%程度

- 検査

SCC抗原 80%にて上昇

- 原因

慢性炎症・アレルギー・ウイルス

HPV(検出率、平均30%程度) 良性type6/11多い

鼻副鼻腔乳頭腫の治療

- ・ Krouseによる鼻副鼻腔乳頭腫のstage分類

T1:腫瘍が鼻腔内に限局

T2:上顎洞内側壁または上壁、または篩骨洞に存在

T3:上顎洞外側壁、下壁、前壁、後壁または蝶形骨洞、前頭洞に存在

T4:鼻副鼻腔領域外へ進展、または悪性腫瘍が混在

- 治療

Stage分類に応じた治療(手術)

再発 4.3~28(~46)%

手術術式

外側鼻切開術(lateral rhinotomy)

鼻外前頭洞手術

Caldwell-Luc手術

内視鏡下副鼻腔手術

ESS(endoscopic sinus surgery)

EMMM(endoscopic modified medial maxillectomy)

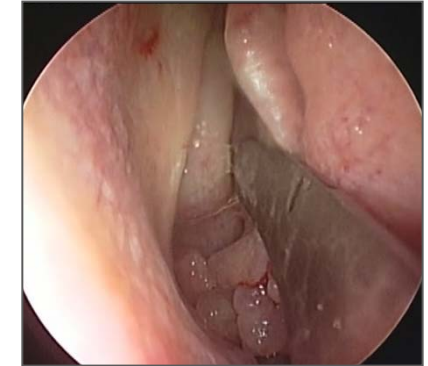
EMLP(endoscopic modified lothrop procedure)

鼻副鼻腔乳頭腫の手術

当院での手術

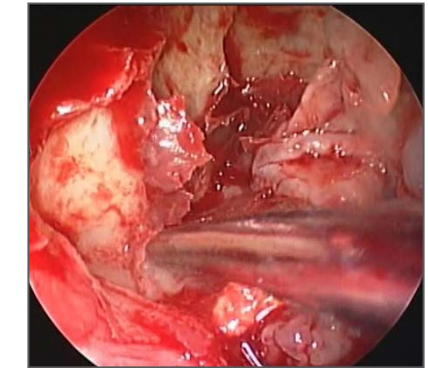
1 鼻腔

ESS



2 篩骨洞・蝶形骨洞

ESS

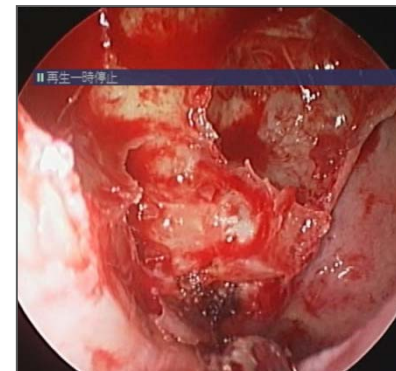


3 上顎洞

ESS・Caldwell-Luc手術

4 前頭洞

鼻外前頭洞手術



骨破壊を認める一側性副鼻腔陰影

- 1 歯性上顎洞炎
- 2 副鼻腔真菌症
- 3 鼻副鼻腔乳頭腫
- 4 鼻副鼻腔癌

上記など、多いのは
炎症性疾患であるが
腫瘍も否定できない



上顎洞癌

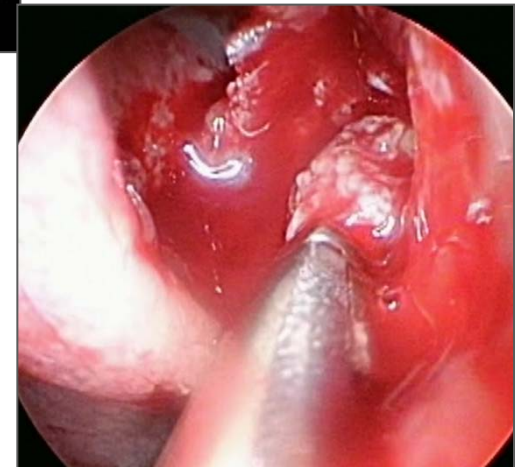
かつては頭頸部腫瘍の中では喉頭癌に次いで多かった。
慢性副鼻腔炎患者に多く、慢性副鼻腔炎の減少に伴い減少した。

- 症状

鼻閉・血性鼻漏
頬部腫脹・歯痛など

- 診断

内視鏡検査
CT検査
MRI検査・PET-CT検査
生検・試験開洞



上顎洞癌の病期

T分類

- T1 上顎洞粘膜に局限する腫瘍、骨吸収また骨破壊を認めない
- T2 骨吸収または骨破壊のある腫瘍、硬口蓋および/または中鼻道に進展する腫瘍を含むが上顎洞後壁および翼状突起に進展する腫瘍を除く
- T3 上顎洞後壁の骨、皮下組織、眼窩底または眼窩内側壁、翼突窩、篩骨洞のいずれかに浸潤する腫瘍
- T4a 眼窩内容前部、頬部皮膚、翼状突起、側頭下窩、篩板、蝶形洞、前頭洞のいずれかに浸潤する腫瘍
- T4b 眼窩尖端、硬膜、脳、中頭蓋窩、三叉神経第二枝以外の脳神経、上咽頭、斜台のいずれかに浸潤する腫瘍

病期

T status

局所進行癌T3・T4が多い

T1	1	(0.8%)
T2	7	(5.9%)
T3	35	(29.7%)
T4	75	(63.6%)
	118	

N status

頸部リンパ節転移は少ない

N0	86	(71.7%)
N1	12	(10.0%)
N2	22	(18.3%)
N3	0	(0.0%)
	120	

上顎洞癌の治療

集学的治療

化学療法(全身化学療法・動注化学療法等)

放射線治療(術前照射・根治照射など)

手術(上顎部分切除・全摘・拡大全摘など)

動注化学療法

上顎洞への血管(主に顎動脈)

浅側頭動脈カテーテル留置術

超選択的動注化学療法

セルジンガー法

動注薬剤

中心静脈

合併症

シスプラチン＋炭酸水素Na(血管痛予防)

チオ硫酸ナトリウム(中和)

脳梗塞

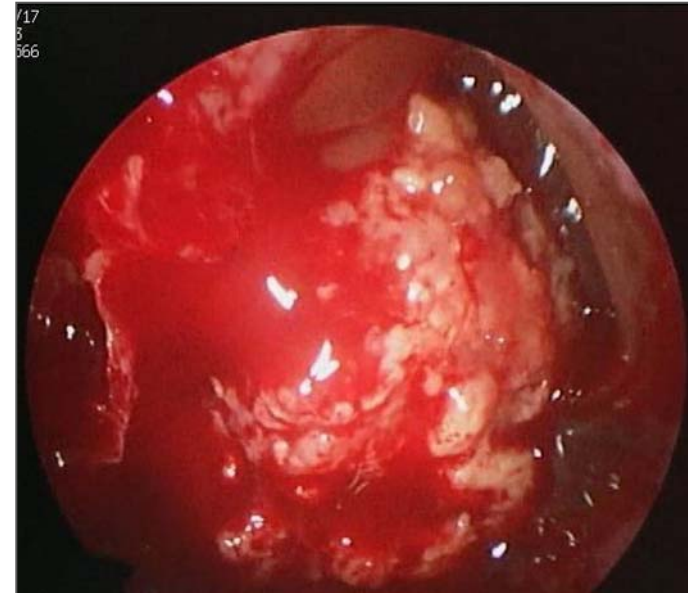
神経障害(視神経、顔面神経など)



上顎洞癌の治療

治療 アルゴリズム

- T1 N0 手術(上顎部分切除術)
 ±放射線治療
 ±化学療法
- N+ 手術(上顎部分切除術+頸部
 郭清術)
 ±放射線治療
 ±化学療法
- T2 N0 手術(上顎部分切除術・上顎全
 摘術)
 ±放射線治療
 ±化学療法
- N+ 手術(上顎部分切除術・上顎全摘
 術+頸部郭清術)
 ±放射線治療
 ±化学療法



上顎洞癌の治療

治療 アルゴリズム

- T3 N0 手術(上顎部分切除術・上顎全摘術・
上顎拡大全摘術・頭蓋底手術)
±放射線治療
±化学療法
- N+ 手術(上顎部分切除術・上顎全摘術・
上顎拡大全摘術・頭蓋底手術＋
頸部郭清術)
±放射線治療
±化学療法
- T4a N0 手術(上顎全摘術・上顎拡大全摘術・
頭蓋底手術)
±放射線治療
±化学療法
- N+ 手術(上顎全摘術・上顎拡大全摘術・
頭蓋底手術＋頸部郭清術)
±放射線治療
±化学療法

